

辺野古移設断念を ハンストで訴え

官邸前 沖縄出身・元山さん

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を断念するよう政府に求め、沖縄出身の大学院生元山仁士郎さん（三〇）が九日午前、東京都の首相官邸前でハンガーストライキを始めた。十五日で沖縄が日本に復帰してから五十年となるが「基地問題は良くなっているとは全く言えず、五十年を祝えるような状況ではない」と訴えた。

岸田政権に対し、辺野古移設断念の他、普天間の数年以内の運用停止や日米地位協定の運用に関する日米合意の公開などを求めていた。ハンストは十日以降も都内にある自民、公明両党の本部前などで続け、十五日は沖縄の記念式典会場の近くで実施する予定。

元山さんは辺野古移設を巡る一〇一九年の県民投票実現に向けた署名集めを主導した。

沖縄の人々は復帰に際し、基地撤去や基本的人権の保障を求めたが実現していないと問題視。県民投票で「辺野古反対」が七割超だったのに、政府が移設工事を進めている点に触れ、「五十年前も今も基地問題は変わっていない。日本全国、世界に向けて訴えたい」と話した。